

「森銑三刈谷の会」だより 37(2024/12/21)

発行 2024/12/21 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

37:2024/10/19(土) 村瀬典章「刈谷図書館と村上文庫展2」
参加 18人

「刈谷図書館と村上文庫展2」

村瀬典章

「刈谷図書館と村上文庫展2」の展示解説とそれにまつわる刈谷藩蔵書印について説明をした。

1 「刈谷図書館と村上文庫展2」の展示解説

今回の展示は、刈谷図書館創立にあたっての村上文庫の整理の過程と方法を中心に、資料とパネルで紹介した。

堤村の村上家に所蔵されていた村上文庫は、明治末期売却の話が出ていた際、藤井万次郎が仲介者となって刈谷町の宍戸俊治・藤井清七両氏が買い取った。藤井家の蔵書目録(展示資料)によると、村上家から藤井家に書籍が移ったのは大正2年4月7日で、約1年かけて自身の蔵書目録を作成している。ちょうどこのころ図書館創立の話が持ち上がり、刈谷町への寄贈を決めている。藤井家から寄贈された分の書籍には「大正記念藤井図書」とある楕円形の蔵書印が押されている(展示資料)。

高須鉦吉が基本方針を決め、森銑三による村上文庫の整理については、大正5年6月17日からであり、森に任されるようになったのは20日からである(展示資料)。このあと森は1日平均400冊余ほどの整理を行っている(パネル資料)。

村上文庫の紹介については、医学、歴史、地理、神道の4つに分け、それぞれ主なものの展示を行った。そのほか文礼館を中心に刈谷藩に関する蔵書印のある資料を紹介した。

2 刈谷藩蔵書印

展示をした文礼館を中心とした刈谷藩に関する蔵書印に関して解説を行った。「文礼館記」とあるもののほか、「刈谷図書」「刈谷文庫」「刈谷勘定所」「刈谷司農役所」土井利行・利善の両刈谷藩主の印など刈谷藩にあったものも文礼館に移されたと考えられる。また家臣から文礼館に書籍を寄贈した史料も残ることから、いろいろな形で文礼館に集積され、廃藩になってから村上家に移されたものと思われる。

興味深い「刈谷図書館と村上文庫展」

鈴木哲

「刈谷図書館と村上文庫展」展示解説は興味深い。展示室に解説書があると良い。村上文庫蔵書印に刈谷図書・刈谷文庫・文礼館印など2,000種もの蔵書印があることを伺い驚いた。台湾の図書館に「文礼館印」のある図書があることを聞いたことがある。『かりや』39(2018)に加藤修「文礼館考」(pp.47-68)がある。たより36(2024/10/19)[外山滋比古]を皆で読んだ。

村瀬さんの話から分かる研究の面白さ

山田宇多子

村瀬さんの説明はご自分の実体験と比べながら銑三の仕事ぶりを解説して下さり、文章からのみ考えるより楽しく心から納得でき、さすが村上文庫の仕事に長年携わってみえる方だと感じました。

蔵書印を調べるだけで、その書物の履歴や刈谷図書と文礼館との関係など、いろいろなことが分かっていくことを知り、研究のおもしろさを感じ取りました。また村瀬さんが資料から分かることからしか断定せず、「ここまでしか今は分からない」とされる研究態度に、誠実なお人柄と、その成果に信頼がおけるものだと思います。

村瀬さんの勉強会の発足を願う

子安重晃

村瀬さん、ありがとうございます。印鑑の歴史の精査は、思わず、かつての森銑三さんが執務室に集中して、目録を作成していたことを連想しました。現在は通過点ですので、将来、村瀬さんの勉強会が発足することを考えました。

飛び出す絵本のような立体人体図

河橋育実

10月の会では村瀬さんに図書館2階の「村上文庫展」の解説をしていただきました。医学書の『紅毛臟腑経絡図(おらんだぞうふけいらくず)』には飛び出す絵本的な立体人体図があり、医学を志す者にとっては分かりやすい教科書だろうと思いました。

蔵書印が逆さまに押されているのがありましたが、意図的なのか偶然なのか、興味を持ちました。

刈谷藩蔵書印について

飯田芳子

展示物は解説を聴くことによって個々の内容を深く理解できるというメリットがある。村上文庫にあっては尚更であると、今回 2 度目の講座で以前にもまして感じることができた。

村瀬典章氏のレジュメは文礼館の成り立ちに始まり、それに関わった藩主、個人からの寄贈による書籍、それらの蔵書印の比較表とその印影である。そこで公印と寄贈本の蔵書印の比較をしたくなる。東洋の文化である蔵書印には、文字の遊びが感じられる。蔵書印番号 44,196「文礼館」の「文」の文字、1172「浜田氏蔵書」と1333「津田蔵書」では「蔵」の文字に特色がある。また1172、1332 の「氏」は共に*張鏐（ちょうりょう）の篆刻に似たものがある。

久しぶりに蔵書印の印影を楽しむことができた会であった。

*張鏐（1769-1821）は清朝の人で篆書、篆刻、隸書、山水を良くした（『中国歴代書画篆刻家字号索引上下』人民美術出版社）。

面白かった蔵書印の話

神谷明子

村瀬さんの蔵書印の話は面白かったです。形、大小、向きが逆さまだったなんて、マサかですよ。入手された方がまた押すから蔵書印が増えるんですね。学問、研究はいろんな角度というか、入口があって分かることも多彩ということがよく分かりました。やはり文字の力は凄い。書名、著者、書かれた内容、時代などから、どんどん広がり、深まることが素人の私でも分かりました。ありがとうございました。

	穴戸家	藤井家
6月17日	1055	
6月19日	513	
6月21日	1308	
6月24日	1047	
6月29日	2710	
7月6日	565	
7月9日	1600	
7月18日		2331
		2250
7月19日		2632
		2348
8月1日		1854
8月25日	3525	
8月26日	682	
12月30日	172	
計	13177	11415
総計	24592	

（『日誌』記載分）

(二) 穴戸・藤井両家より納入図書数一覧表

八月一日 火曜 曇
午前七時十五分出勤、午後四時退出。午前十時、藤井家より書籍一千八百五十四冊受領す。（以下略）
四十八冊受領す。（以下略）

七月十九日 水曜 晴
午前七時二十分出勤、午後六時退出。午前九時半、藤井家より第三回書籍二千六百三十二冊受領し、午後五時半、更に第四回二千三百冊を受領す。午後五時三十分退出。

七月十八日 火曜 晴
午前七時二十分出勤。穴戸家へ赴き、図書整理中、藤井家より書籍来るの電話あり。直ちに帰りて、藤井家の書籍、第一回二千三百三十一冊領収す。高一児童五名（久米光男、宮石博、森下周之助、岡本実次、森次郎）を頼み、数を調査し、午後レッテルを貼らしむ。午後五時更に藤井家より第二回二千二百五十冊を受領す。午後五時三十分退出。

(一) 森銃三記録の『日誌』（大正五年）より
藤井家から刈谷図書館への図書納入

村上文庫整理の仕事について

神谷美恵子

多くの書物を後世に残したいとの強い思いがあったから、こうして私達が目にする事が出来るのです。銃三さんの時代は大変な仕事だったと思います。でも子供たちにラベル貼りをして貰うなど、銃三さんらしくてほっこりした気持ちになりました。

具体的にになった開館当時の様子

神谷磨利子

刈谷町立図書館に移る前の「藤井家蔵書目録」（刈谷市歴史博物館所蔵）と森銃三の書き留めた「村上文庫台帳」（刈谷市中央図書館所蔵）との対比や、銃三が村上文庫整理の過程を記した「日誌」から算出した作業に要する時間と「古典籍データベース」作成での村瀬さんの作業時間との対比など、村瀬さんならではの解説をお聞きし、刈谷町立図書館の開館当時の様子がこれまで以上に具体的に理解できた。村瀬さんの場合は古文書読解に精通していらっしゃるが、初めは知識も少ない20歳そこそこの銃三が、村上文庫の目録作りに次第に打ち込んでいく姿が目に見えた。

記事

11月16日 2024/11/23(土) 13:30-刈谷市郷土文化研究会文化講演会 塩村耕「村上忠順、岩瀬弥助、森銃三」>に振りかえ、休会しました。

2024/10-2025/2 予定

- 38: 2024/12/21(土) 鈴木哲「森銃三の西鶴『一代男』一作説と^{てのおか}暉峻康隆(1905-2001)」
- 39: 2025/1/18(土) 竹中良枝・神谷明子・神谷美恵子「『武玉川選釈』を読む」
- 40: 2025/2/15(土) 神谷磨利子「森銃三(1895-1985)と師・井上通泰(1866-1941)」